

山田みやこの活動報告

令和7年5月24日（土）

市川房枝政治参画フォーラム

「一人ひとりが尊重される権利」を守るために

基調講演

「こどもの健やかな育ちのために」

－AI時代の大人が知っておきたいこと－

講師 兵庫県立大学 竹内和雄教授

1. スマホ時代到来

内閣府実態調査（R4年2月）ネット利用率

2歳 62.6% 過半数⇒低年齢化

スマホっ子 共働き世帯の増加により2020年1,240万世帯に

2. 「制限・禁止」から「利活用」へ

これまで フィルタリング → いかに使を制限するか

これから 賢く使う方法の模索 → 社会全体で考える時期

3. 課題も山積

1) ネットいじめ

PCや携帯電話で誹謗・中傷や嫌なことをされる

H18 → R2

小学生 466件 7,407件 (15.9倍)

中学生 2,691件 8,662件 (3.2倍)

高校生 1,699件 2,598件 (1.5倍)

2) ネットの長時間利用

WHO（世界保健機構）が「ゲーム障害」を正式に病気認定⇒社会問題化

3) ネットの危険

危険な出会い

愚行投稿による炎上

闇バイト、パパ活等が社会問題に

4. 相談される大人に

相談に値する大人の存在

5. 子どもたちに何が起きているか

イライラする、勉強に自信がない、ネット3時間以上 ⇒ いじめっ子

朝食必ず食べる、周囲に認められている、

学校でも安心できる、家庭で安心できる ⇒ いじめ加害少なくなる

- ・ 自肯定感・安心感・大人への信頼があれば子ども達は穏やかになる
子ども達の心の中で起きていることを大人はいかに理解するかがカギ

- ・ ネットトラブルが減るのは
合唱コンクールが一番（クラス単位で同じ目的に向かう）という結果

山田みやこの活動報告

デジタル性暴力ってなんだろう？—スマホ必携が進む社会で—

講師 NPO法人ぱっぷす理事 内田 絵梨さん

NPO法人ぱっぷすとは、2017年11月設立したデジタル性暴力や性的搾取による被害の相談に応じている団体で、被害直後からの総合的な支援のため、4つの活動を行っている。

- ① 相談支援
- ② 人に変わって拡散した性的画像記録の削除要請を行う
- ③ アウトリーチ、居場所提供
- ④ 政策提言

デジタル性暴力とは、「性的同意」の自由がなくなって、自分の意志による写真や動画のコントロールができなくなる状態。写真を撮る、写真を持つ、誰かに見せる、取った写真やネットで見る、すべてが性暴力になる。

令和5年度総務省調査報告から、全年代では、スマートフォンの利用率が97.5%と高く、年代別でも各年代で90%を超過。水道の普及率と同等という。

どんな手法での被害かというと

- 1) グルーミング（子どもに近づき信頼を得て、その罪悪感や孤立感などを利し、関係性をコントロール（支配）する
- 2) セクスティング（性的な会話、自画撮りの要求、ビデオ通話の録画）
- 3) セクストーション（ATMでお金支払えなど脅し）
リベンジポルノ（性的画像を拡散）

加害を可視化するため、グルーミングの加害実態調査を実施し、その結果、2023年グルーミングに関する法律が新設された。

金銭セクストーションは急速にエスカレートする脅威だが、まだ対策をしていない日本の若者がターゲットにされている。

被害者への対策として、1文字たりとも情報を送らない、即ブロックなどの対応で被害者を孤立させない。しかし、被害をなかったことにし、被害者を追い詰め、声を挙げさせない仕組みがある。

「自己責任」にさせない社会を作るには、

- 1) 性的同意・デジタル性暴力の認知度向上
情報や出来事を正しく理解し、単なるITスキルではなく、法的・倫理的な判断能力のインターネットリテラシーが必要だが、性的同意やデジタル性暴力を知らないで理解や判断ができず、無意識のうちに加害行為を行ってしまう可能性もある。
- 2) 人の気持ちに思いを馳せる（想像力を育む）
自分の行動がどう影響を及ぼしていくのか、相手はその時どう思っているのか、相手の気持ちに思いを馳せるための想像力を育む必要がある。

自分の権利を主張することが大事

自分が守られる法律がある 証拠を味方につける 専門機関に相談

意に反して拡散した性的画像記録の削除（ソーシャルワークの視点から削除）

2019年度17,389件 → 2021年度 21,876件 （約70%削除）

削除要請における撮影された側と撮影者・消費者の格差

撮影された側 匿名性が担保されていない

撮影者・消費者 匿名性が担保されている

最後に

性暴力は寂しさや不安からの支配欲

教育委員会や先生方にもデジタル性暴力について話を聞いてほしい

行政作成のチラシにも掲載し駅やトイレに置く

「相談してもいい」という認識をより広げるために、人と人との「繋がること」が大切